

## 会議録：「第 1 回恵那市産業振興会議」

日時：令和元年 6 月 14 日（金曜日） 15：00～17：00

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：出席 14 人、欠席 1 人（別紙参照）

### 1. 開会

○事務局「第 1 回恵那市産業振興会議を開会します。会長選出まで司会進行を務めます商工課の長谷川と申します。委員の皆様の任期が 3 月で満了となっているので市長から委嘱いただきます。（市長から各委員に委嘱）」

### 2. 市長あいさつ

○小坂市長「恵那市産業振興会議も 3 年目となり、改めて委嘱させていただきました。大変お忙しい中、委員をお引き受けいただき、感謝申し上げます。これまで 2 年間会議を開催してきましたが、時代は常に変わっています。このような状況の中で、今すぐできることは何か。ここ数年の社会状況や世界情勢の変化などを見ながら、恵那市で取り組む課題は何だろうということについて、色々な視点からご提案いただきたいと思います。ご提案いただく中から、私たちができることを最大限に実施していき、人々が集い、住んでいただけるよう、町づくりにつなげていきたいと考えています。」

### 3. 会長・副会長選出

○事務局「続いて、会長・副会長の選出に移ります。恵那市産業振興会議設置要綱第 5 条により、委員の互選により定められています。これまでの経過を考慮して、引き続き、中部大学の森岡先生に会長を、恵那商工会議所の山本会頭に副会長をお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。（異議なし）異議なしということですので、よろしくお願ひします。  
まず、森岡会長からご挨拶をお願いします。」

○森岡会長「前年度まで 2 年間、本会議の会長をさせていただきました。商業・観光、工業、農業、林業と 4 部会での検討内容を当会議で議論し、種々の施策が策定され、すでに具体的に実行に移されているものもある。恵那市の産業振興を通じて地域活性化、そして住民がより良く生活できるよう、本会議が実り多いものとするため、引き続き活発な議論をお願いします。」

○事務局「続いて山本副会長をお願いします。」

○山本副会長「今できることは何か、将来展望としてこれから何をやっていかなければいけないかということについて委員の皆さんと具体的に議論していき、恵那市が明るく住み良い町、健康で幸せな町になるよう共に進めていきたい。」

○事務局「それでは、本会議の議長は、会長が務めることとなっております

ので、ここからは森岡会長をお願いします。」

○会長「議事に入ります。議事（１）本日の会議資料の整理と進め方（２）今年度の会議スケジュール について事務局から説明をお願いします。」

○事務局 資料１・２を説明

○会長「続いて、本日の協議事項である（３）に移ります。事務局から説明をお願いします。」

○事務局 参考資料①～⑤を説明後、資料３を説明

○会長「事務局から説明がありましたが、商業・観光分野について①「地域資源の活用とブランド化」②「知恵とネットワークを生かしたものづくり」③「市場開拓・販路拡大」の３つについて意見があればお願いします。」

○委員「クラウドファンディングについてはメディアでも聞きますが、市内で既に取り組んだ事例があれば教えてほしい。」

○事務局「『えなぱく』という食のイベントの開催経費、恵那峡でのイベント開催経費を集めた実績があります。最近だと岩村町の共同キッチンの事業費も集めました。」

○委員「WRC の件など『D0』の部分、スポーツ観光なども具体化されると思う。WRC は１レース 14 カ国で実施し、全体で 400 万人の来場者がある。１カ国当たり約 30 万人が来る計算になる。そうすると恵那は圧倒的に宿泊施設が少ない。民泊や農泊もいいですが、来年の秋のことなのでどうにかしなくてはいけない。車を使って宿泊ができる水やシャワー、電気など必要最低限のハードを揃えたキャンプ場などを考えていかないと 1 年後大変なことになる。宿泊施設はすぐには出来ないですが、イベントが来たときにどう対処するか。2019 年秋にワールドカップがありますが、キャンピングカーのレンタルはできない。ニュージーランドは決勝まで行くつもりでいるので 3 ヶ月間は滞在する。その人たちをどこに宿泊させるかというアグリパーキングが考えられる。可児に出来たと聞きますが、対した費用はかからない。キャンプ場などを活用してそのようなことを考えたほうがいい。」

○委員「④⑤⑥に『麒麟がくる』関連事業がありますが、一過性をどのようにして継続させるかを考えるべき。大河ドラマ館など、確かに一時的に観光客は来ますが、これを機会に色んなチャンスを生かして、来られた方や興味を持たれた方にどうやって恵那の印象付けをするかが重要だと思います。大河ドラマの舞台になったところの話を聞くと、まさに一過性で、ドンと増えてドンと下がる。このような経験をしたところは反省をしながら、もっと別の切り口で来ていただきたいと思う方が多いのではと思います。そういったところも参考にしながら、来た人を楽しませる、または興味を持つこと以上にリピーターとして来てもらうための魅力が他にどこにあるかを考えてもらいたい。」

○会長「一度来て魅力に気づいてもらい、持続してもらおう仕組みづくりが重要だと思います。リピーターがいないと活性化できないので、そのための仕組みづくりを知恵を出し合って考えてほしいということですね。」

○委員「昨年、『半分、青い』の放送があり、未だにたくさんのお客さんに来ていただいている。7月7日に放送1周年ということでメモリアルイベントを大々的に開催する予定です。一過性で終わらない取り組みを市として実施していきたいと思っています。」

○会長「『麒麟がくる』は歴史ものですが、中高年は歴史好きが多い。そういった方たちを的確に取り込んでリピーターにする仕組みづくりをしてほしい。

④⑤⑥について他に意見はありませんか。では⑦「経営支援」と⑧「経営基盤の強化」について意見はありますか。」

○委員「経営支援の中の『キャッシュレスやソフトなど IT の活用』と『事業承継』、実施事業の中で『キャッシュレス決済システム導入推進プロジェクト』が記載されていますが、商工会議所や商工会、商店街でもキャッシュレスを導入するための事業に取り組んでいる。個々の店が対応しているものもたくさんある。PayPay の取扱店はたくさんある。プレミアム商品券事業も継続され残っていくと思いますが、商品券ばかりに頼っていくのではなく、恵那市全体の商業者が安心して商売ができ、地域の活性化につながることを考える必要がある。先ほどの恵那市の現状を見ると、事業所数は減少し、大型店舗が増え、売り上げは維持しているのは恵那市にとってはプラスではない。地域が活性化し、地域の魅力を発信できる商業活動ができるエリアが大切。特に恵那、岩村、明智、色んな形で商品券事業を実施し、還元するパワーはそれぞれのエリアにある。恵那でも岩村でも明智でも共通のソフト事業。先日、商店街と行政で九州の柳川市に視察に行った。人口 6 万人ほどの町で恵那市と似ている。エリアは 1/2 以下なので人口密度は違うが、それぞれのエリアに商工会議所と商工会がある。加入している商業者、サービス業者たちが一つの団体を作り、行政と地域貢献協定を結び、商店街や商業者が何か一つ活動をすることによって、すべて行政と地域貢献に資するイベントにしている。高齢者の見守りなどで行政ポイントを付与する。商業者が色んな活動をする中に行政の活動を取り入れて、例えば、母子の健康診断に来たらポイントを付与する。市役所を利用して高齢者の健康を維持する取り組みにたくさん参加することによって、どこでも使えるポイントを付与する。特に 70 歳以上の高齢者に関しては、買い物をしなくても加盟店に寄り、元気な顔を見せれば行政ポイントを付与する。高齢者が 3 ヶ月間ポイントの増減がないと、事務局から民生委員のところへ連絡が行く。行政も 1 事業所としてポイントを付与するようにしますが、たくさん端末を持つのは大変なので、紙ベースでお客さんに提供し、2 ヶ月以内に端末がある店で交換してくださいとする。特に面白いのは、結婚した方へのお祝い 5 万円ポイントや移住してきた方へのポイントなど、市民サービスを提供するときにはポイントを使う。約 250 者が加盟している。ポイントカード事業は 1 商店街では魅力がなかったが、柳川市と商工会議所、商工会で希望する組合を作って、全域で対応するので

あれば 1,000 ポイントが付与されたカードを市が市民に配布する。それにより利用者を 15,000 人にした。会員を作るのが大変なポイントカードですが、行政がポイントを付与して、イニシャルコストは 1600 万ほどかかったそうです。後はカード会員が買い物をして、商業者が消費者に対して魅力をたくさん作っていく。市内全域で取り組むことによってオリジナルの経済圏を皆で作る。土岐市にイオンモールができ、正家にも大型ショッピングエリアができる。そういった中で、消えていってしまう商業者が発生する危険性がありますが、市民に支えられるソフト事業を計画して、全ての地域で同じレベルの商業活動ができれば、地域愛がある人たちなど応援してくれる人たちはたくさんいると思います。恵那市オリジナルの地域通貨を作りながら地域経済圏を獲得することによって持続可能な事業者育成や事業継承につながっていくスタートになるのではと思っている。少しでも若い人たちにこの事業を研究していただき、ビジョン検討部会で意見交換していただきたい。」

○会長「今、先進事例の紹介がありました。子どもだけでなく高齢者についても 3 ヶ月以内に活動が見られなければ何か起きたのではという地域で見守っていく意味もあると感じた。ビジョン検討部会でも検討いただければと思います。

では、⑨「新たな担い手発掘と育成」から⑮までで意見はありますか。ないようですので、次の工業分野について事務局から説明をお願いします。」

○事務局 「今後取り組むべき事業（工業分野）」を説明。

○会長「商業・観光分野と同様に①から③で意見はありますか。」  
(意見なし)

「④から⑥で意見はありますか。」

○委員「工業分野で『集客できる拠点の整備』はありえますか。例えば産業観光というのがある。恵那市全体で産業観光をやるというのであれば記載してほしい。記載がないということは④⑤⑥については事業をしないと市では考えているということですか。」

○事務局「未記入の部分は、具体的な事業まで検討が進んでいないという意味で『未着手』という考え方です。今後、工業分野でも観光と連携した事業が検討されれば、メニューとして挙がってきます。」

○委員「『基本施策』と『狙い』については、全分野共通となっている。工業分野でも項目の中で濃淡があり、④⑤⑥の項目については現状では力を入れていない。『令和元年度恵那市実施事業』に記載があるものについて力を入れているということです。次年度以降に実施することはあります。」

○会長「産業遺跡というものがあり、ダム見学などがそうですが、産業遺跡の取り組みは大切。学生に見せて日本の近代化はどのように行われてきて、第 4 次産業革命にどうつながって行くのかを考える上でも、産業遺跡でも稼働している工場見学でも商工会議所などから事業者働きかけ

て新たな取り組みを生み出すことも検討部会で検討していただきたい。一つ知ると他にも発見があり、そのような分野が新たに出来上がってくる。国では小規模事業者の活性化が最も叫ばれているので、イベントと掛け算するなどを検討いただきたい。  
⑨から⑮までで意見はありますか。」

- 委員「テクノパークの現状でいうと、従業員が 1,670 人ほどいますが、その中の 300 人が外国人。去年が 150 人なので倍になった。苦労しているのは通勤と住まい。今後まだ増えてくると道路整備も関わってくるでしょうし、過去にここまで外国人が増えるという経験がないので、それを考慮して町づくりしていかないと色んな問題が起きてくる。」
- 会長「外国人対応による町づくりの再構築というテーマ。外国人が増えれば住民との関係の問題も起こってくるでしょうし、ゴミの問題も考えられる。そういったことも検討してほしいということですね。」
- 市長「⑭『企業立地の促進』ですが、この 4 月に『企業誘致推進室』という組織を作ったので、今後活発化してきます。」
- 会長「他に意見はありませんか。では農業分野に移ります。事務局から説明をお願いします。」
- 事務局 「今後取り組むべき事業（農業分野）」を説明。
- 会長「取り組み内容を聞くと、農業だけでなく観光にも商業にも関わることではないか。6 次産業化が進むことによって色んなところが関わってきている。そういう視点からも協議いただければと思います。①から③で意見はありますか。」
- 委員「地域の農産物販売拠点の整備に当たっては、ただ販売ではなく食や交流が付帯するのが一般化しているので、そのような拠点を充実してほしい。NEW FARMERS 交流会議の中でマルシェの展開なども行われていますが、課題はイベントのバッティング。それをどう調整するか。お互いがイベントを展開することによってお客さんの分散が激しくなってきたので、どこかが主体となりコーディネートできると、この週はここでイベントがあるというような整理ができる。」
- 会長「モノとコト。昔なら農作物だけ売ってれば良かった。そうではなくてレシピまでちゃんと作る。シェフを連れてきて、作るのを見て食べてもらう。連携しないとできない。それで付加価値を高める活動もコーディネートの重要さだと感じる。イベントのコーディネートとイベント内容のコーディネートの強化を検討していただきたい。」
- 委員「他所から進出してくる業者が、この地で土地を探して農作物を作ってくれないかという話があるが、土地はあるが、作る担い手がない。ワインや酪農、イチゴ、トマトがあったが、そこへ向かっていけない地域事情を解決することができれば農業も元気になると感じています。」

- 会長「引き合いはあるが契約農家にならない。契約農家になるためには何をしたらいいかということ。利益の上がる農業経営をどうするかということも出てくる。」
- 委員「生活していける農業とするために課題をどう解決していくか。一人では難しいので会社組織などで利益を上げていく仕組みを作っていくことが必要。」
- 会長「農業分野の会議で、問題の抽出と解決方法の検討と、事業化できるかどうかを検討してほしいということですね。」
- 委員「自立していく産業を目指して、今年度、農業経営塾を立ち上げた。農家の方に経営感覚を持っていただくということと、組織化については、1億の売り上げを達成した経営体もあり、規模の問題も含めて、担い手の確保にも努めていきたい。」
- 委員「農家の方たちに経営を学んでいただくことは難しいと思います。こんな作物を作ってほしいという話があった場合に、農業法人が企業化して農家の方たちを雇い、作っていただくことはできないか。」
- 委員「個人だと対応も限界がある。1億売り上げた営農組織では、若い農家を従業員として雇用している。そういったことが今後の農業を継続していくためには重要。『水稻+1』という事業では、東京とらやの白小豆を経営体において作ってもらったということもある。」
- 委員「水稻は面積拡大で所得が決まってくるが、一人では面積拡大できない。高山では農家が3軒集まり、さらに兼業農家を雇用して、技術的にも上がり、今では100ヘクタール近くを耕作しようとしている。それによって預ける方が増えてくる。法人化しているので強気で販売でき、価格も決定できる。恵那でも可能かもしれない。」
- 会長「高山では高山学というものがあり、いくつかの大学がコンソーシアムを作って、どうしたら活性化するかを議論している。参考にさせていただくといい。  
最後、林業分野について事務局から説明をお願いします。」
- 事務局「今後取り組むべき事業（林業分野）」を説明。
- 会長「①から③について意見はありますか。」
- 委員「森林環境譲与税への対応を最優先としている。人材確保が非常に厳しい状況。木工は職人の世界なので、すぐに増やすことはできない。今は山を生きた山に戻すことが最優先ではないかと考えている。農業についても耕作放棄地の増加を止めることが先ではないかと考えている。」
- 委員「ハローワークからの紹介で森林組合に就職した人は今年はいなかった。森林譲与税を使って林業を担う後継者を少しでも確保したい。」

○会長「30年度の課題に出っていますが、体験から定着につながる仕組みづくりや現状維持しながらということも今後考えていただきたい。山が荒れてしまうと全部に影響してくる。洪水が起こったり、道が崩壊したり、水が汚染されたりするのは山を放置した結果だと思っています。恵那の山を資源として生かしていただきたい。守りながら進んでいくスタンスを検討部会で検討していただきたい。

4分野について検討部会で議論してもらったテーマを皆さんから出させていただきました。本日でいただいた意見を各検討部会で具体的に議論していただくことと恵那市産業がさらに活性化することを期待しております。最後に全体を通しての意見交換をします。」

○委員「恵那市で木材を使って新築する人がどれくらいいるか。商店街にも空き家がたくさんあるが、空いている土地に新たに建てるほうがいいのか、マッチングして活用できないかなどを検討し、地域全体で木材や空き家の活用にも目を向けてもらえるといい。」

○会長「空き店舗や住んでいない住宅はリフォームすれば活用できる。そのためには木材を使わなければいけない。または電化製品を入れなければいけない。これにより産業が活性化する可能性も出てくる。農業でも使える休耕地の実態を調査してもらおうといいというようなことも議論いただけたと考えます。」

## 7. 閉会

○会長「今回の会議はこれで閉会とします。」

【6/14 第1回恵那市産業振興会議意見まとめ】

●商業・観光分野で検討する内容

- ・スポーツ観光
- ・WRCなどイベントが来たときの宿泊対応
- ・車を使った宿泊ができる場の確保
- ・ドラマを一過性ではなく継続的な活動とするための仕組みづくり
- ・来た方に印象付けし、リピーターになってもらう仕組みづくり
- ・商業者が安心して商売ができる仕組みづくり
- ・恵那、岩村、明智など市全域で共通のソフト事業
- ・恵那市オリジナルの地域通貨を作りながら地域経済圏を獲得する

●工業分野で検討する内容

- ・産業遺産や工場見学など新たな取り組み
- ・増加する外国人労働者に対応した町づくり（住居や通勤問題の解決）

●農業分野で検討する内容

- ・販売だけでなく食や交流が付帯する農産物販売拠点の充実
- ・イベントがバッティングしないようコーディネートする仕組み
- ・イベント自体の価値を高めるコーディネート強化
- ・作物栽培ニーズに応え契約農家を増やす取り組み
- ・会社組織などで利益を上げていく仕組み
- ・法人化で農家を雇用し、技術力や営業力を高める仕組み（高山を参考）

●林業分野で検討する内容

- ・将来の担い手を体験から定着へつなげる仕組み
- ・山を維持しながら、資源として活用する取り組み
- ・建築や空き家リフォームなど地域全体で木材活用する取り組み